



明けまして おめでとうございます

校長 村岡 靖

令和5年が始まりました。皆様、新年を健やかに迎えのこととお喜び申し上げます。年頭に当たり、皆様のご健康とご多幸をお祈りいたします。

新しい年を迎え、ご家庭や一人一人で、今年の抱負や目標を立てられた方も多いのではないのでしょうか。昨年末の最後の朝会では、「今年一年を振り返ってみましょう。振り返ると、反省ばかりになってしまいがちですが、自分の頑張ったところ、できたところにも目を向けましょう。」と話をしました。

昭和の日本を代表する野球選手の話聞いたことがあります。その選手は、自分が打たないと負けてしまうような緊張する場面で良い結果を出して、スーパースターになっていたのです。周りの人々は、緊張しないのかなと不思議に思っていたのですが、その選手は「ここで僕がホームランを打ったらヒーローだ。」と良いイメージをもって、にこにこして打席に入っていたのだそうです。

「ここで打てなかったら負ける。自分のせいだ。」と考える人がいれば、「ここで僕が打ったら勝てる。」と考える人もいます。どちらが良い、悪いではありません。でも、何かに挑戦していく時や不安になる時に、自分が成功するイメージをもつことは、とても有効です。自分を前向きに高めることができるからです。自分を肯定することにもつながります。自己肯定感に裏打ちされた「自己有用感（自分はみんなの役に立っている。自分は大切な存在だ。）」は、人が明るく前向きに生きていくうえでとても大切なキーワードです。

「自分はダメだ。」「何をしてもうまくいかない。」などと否定的に考える子どももいます。自分の良いところ、頑張ったところに目を向けられるようにしていきたいものです。朝会の終わりに「ええところ」という絵本を読みました。自分には良いところがないと悩む女の子が、親友に自分の良いところを聞くのです。その友達は「あなたの良いところは手があたたかいところだ。」と答えます。女の子は「そこか。」と少しショックを受けますが、掃除をして冷たくなっているクラスの友だちたちの手を自分の手で温めます。最後に親友の手を温めようとしていますが、人の冷たい手を温めてきたので、もう手は温かくななくなっていました。もう良いところもなくなると悲しくなりますが、親友は、「みんなの手を温めたその優しさがあなたのええところや」と言います。するとその女の子は自分の良いところを見つけてくれた親友の優しさに気付くのです。

自分の良いところに気付き、人の良いところを認められる、そんな新田小学校にしていきたいと思います。今年もご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。